

一次の文で、主語 何が、何は、だれが、だれは に—— 線をつけ

述語 どうする、何だ、どんなだ に
線をつけましょう。

例、きのう、わたしは えいがを 見た。



「主語」と「述語」
でないものを
「修飾語」という
よ。

(1) 弟が、友だちと いっしょに 走った。

(2) わたしは、新しい ふでばこを 買った。

(3) 赤い 車が、家の 前に とまった。

(4) メロンは、あまくて おいしい。

二次の文で、修飾語 くわしくする言葉 にあてはまる言葉をえらびましょう。

例、きりんが、えさを 食べる。

えさを

(1) おばあさんが、夕ごはんを 作った。

夕ごはんを

(2) わたしは、手紙を 書いた。

手紙を

(3) はりの あなは、小さい。

はりの

(4) ゾウは、大きな 動物だ。

大きな

三次の文の に、修飾語をつけくわえて、くわしくしましょう。

例、星が、空で 光る。
 星が、空で きらきら 光る。

(1) わたしは、友だちと 会います。

例、わたしは、友だちと () 図書かんで () 毎日 () 会います。

(2) 雨が ふっています。

例、雨が () ザアザア () しとしと () ぽつぽつ () など () ふっています。